

申請団体審査講評（評価ポイント）

番号：01	団体名：社会福祉法人 飯田市社会福祉協議会
地域：飯田市	事業名：困難を抱えるこども世帯等への支援事業「もぐもぐサポーター事業」「日用品配布事業」
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 昨年度の実績を活かしつつ、支援対象者の拡大（児童養護施設等の退所者や困難を抱えるより多くの世帯）や日用品等支援品目の拡大を図り、着実な計画で支援の枠組みを広げようとしていることを評価。 ➤ 食品寄付量の減少に対応するために重要なフードドライブに取り組む点も評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設を退所しひとり暮らしを始める若者が自立できる環境づくりについて、積極的な取組みに期待。 ➤ 連絡会議の開催など支援ネットワークを強化し、支援対象者の登録漏れがないようにすることや事業終了後も食料支援を継続できる体制の構築に期待。 	

番号：02	団体名：社会福祉法人 山ノ内町伊那市社会福祉協議会
地域：山ノ内町	事業名：くらし・ふれあいサポート事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 北信地域を代表する観光地において、外国人を含めた幅広い人々の生活困窮支援を行う点を評価。 ➤ B型就労支援事業所への作業の委託も有効な支援になる。 ➤ 食料支援事業の実施にあたって各市町村社会福祉協議会や行政等との連携がある点を評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 多文化共生の一助になる、実効性のある支援を期待。 ➤ これまで支援に至らなかった外国人等を把握、早期支援するためのネットワークなど連携体制の構築にも期待。 ➤ 北信地域全体を対象に実施する計画であり、広域連携を進める中、町内のみならず北信地域全体で支援の拡大を期待するが、対象者や対象地域の広がりに応じて、何をどう支援するか、事業展開の「焦点化」も重要。 	

番号：03	団体名：社会福祉法人 木祖村社会福祉協議会
地域：木祖村	事業名：しあわせ安心生活応援総合事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 木曾郡内を広域的に網羅し、食料品や生活必需品の宅配サービス、子ども食堂への支援、進学時の助成など多様なニーズに応じた多角的な支援で、幅広い生活者の支援につながることを期待。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 支援メニューが多岐にわたることから、優先順位も考慮しつつ、対象地域の広さに合わせた有効な支援内容、方法を開発してほしい。 ▶ 学習塾や制服購入支援は、行政による修学支援と重なる面があり、支援方法を工夫されたい。また、支援を受ける生徒とそうでない生徒の公平性に留意してほしい。 ▶ 相談支援団体や行政機関と継続的な連携を図り、確実な実績を上げることを期待。 	

番号：04	団体名：社会福祉法人 伊那市社会福祉協議会
地域：伊那市	事業名：アウトリーチを主体とした生活困窮世帯等への支援ネットワーク構築事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 連携している団体が多く、生活困窮している人の把握がしっかりしている。 ▶ 継続申請であり、資金計画書には、かなり具体的な支援費目が記されており、具体的な支援が期待できる。 ▶ アウトリーチ支援を行う点も評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 多機能型事業所との連携により、施設利用者の働く意欲の向上や地域の理解が進んでいくことに期待。 ▶ 上伊那の広域的な取組のため、これまでの社協間の連携に加え、企業、団体、学校等との関係づくりのなかで、より広範囲な要支援家庭の掘り起こしと多様な生活支援を期待する。 	

番号：05	団体名：社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会
地域：軽井沢町	事業名：様々な人をつなぎ気かけ合う場づくりと生活課題に寄り添う支援事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 食料支援を兼ねたアウトリーチ（アンケート）のほか、子ども食堂および学習支援、「ちいき食堂」や「ちいきの居場所」運営、「チャレンジ広場」など多様な支援のなかで、地域住民との関りを創り出す、また、支援が届きにくい家庭にきめ細かな支援が期待できる。 ➤ アウトリーチ支援を積極的に行う点を評価。 ➤ アウトプットや活動内容が詳細に記載されている点を評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 確実な調査・周知による実行ある取組みになるよう期待。 ➤ 軽井沢町内だけでなく、隣接地域への波及や連携を見据えた活動モデルを構築することを期待。 ➤ 本事業が緊急枠の休眠預金事業であることを考慮し、こども食堂の新規開設にあたっては、支援の必要な困窮者が多く参加できるよう最大限留意してほしい。 ➤ 器機修理、車両購入、人件費割合などについては、緊急事業の趣旨との整合性に留意を。 	

番号：06	団体名：労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団
地域：松本市	事業名：長野県中信地域におけるフードバンク・フードパントリー事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ フードバンク事業の実績に基づき、自治体・民間団体等とさらに連携を広げることで、中信地区の広域的な食糧支援の拡充が期待できる。 ➤ これまでの実績を活かしながら、効果の高い支援を実施していただけるのではと考える。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 児童館等の運営実績や既存のネットワークを活かし、公的支援からこぼれる潜在的な困難層への幅広い支援を期待。 ➤ 足腰の強いさらなる支援ネットワークの強化や食品寄付を増やす取組みに期待。 ➤ 移転拡張する倉庫については、有効かつ継続的な活用に配慮を。 	

番号：07	団体名：特定非営利活動法人 北アルプスの風
地域：大町市	事業名：地域資源を大切に使う皆でつながろう
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 食糧支援を契機に、孤立予防や生活困窮家庭等の把握、配送業務と就労支援との接続、限界集落での柿の木管理と加工支援や、過疎化に対応した若者の資格取得支援（防災士等）など、地域課題に即したユニークな取組の効果に期待したい。 ▶ 相談・支援窓口、学校などとの連携を評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 継続申請であり、関係機関との連携強化により支援地域の拡大と支援の深化を期待。 ▶ 防災士資格や柿の木の管理については、本事業が緊急枠の休眠預金事業であることを考慮し、実施の優先度の説明や実効性の高い取組みの構築がなされるよう留意する必要がある。 	

番号：08	団体名：特定非営利活動法人 はなぶさ学園
地域：飯田市	事業名：物価高騰に負けない緊急支援と在宅ワーク支援の仕組み作り事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 継続申請であり、緊急物資支援について、新たな町村の社協と連携し地域の拡大が期待される。支援の枠から外れがちな要支援家庭を、防災の知識を学びながら物資支援を兼ねる防災カフェなどで把握する工夫や、レザークラフト教室と作品販売による在宅就労支援の拡大と深化に期待したい。 ▶ 緊急物資配布について、複数の団体と連携する点を評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 広範囲の活動内容となっており、事業規模も大きいことから、適切な事業運用がなされるよう、事業計画、資金計画の精査検討が必要。 ▶ 防災カフェについては、要支援者の発掘やアウトリーチにつながるよう活動内容の工夫が必要。 	

番号：09	団体名：一般社団法人 グローブソーシャル
地域：諏訪市	事業名：諏訪地域みらい福祉創造事業
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ A型、B型の就労支援事業との連携を取っていく構想が、いい形で展開していくことを期待。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 求められるところに確実に届く事業運営の強化を期待。 ▶ 諏訪圏域全域に取組みをどう周知させ、広域的に広げていくかは課題。 ▶ 本事業を通じて、社協や行政とのつながりを強化することや、昨年度の実行団体との連携に基づく子ども食堂での食料支援、自立支援協議会とのつながりをいかした諏訪地域での支援の展開に期待。 ▶ こども食堂を経由して食糧支援を行う際は、本当に必要な世帯に支援が届くよう配慮が必要。アウトリーチ支援についても積極的に取り組んでほしい。 	

番号：10	団体名：社会福祉法人 信濃福祉
地域：長野市	事業名：アウトリーチによる多様な課題を抱えた世帯への幅広い緊急支援と継続的な助け合いモデルづくり
<p>● 評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 継続申請であり、多様な対象者（フードバンク等の利用者、生活福祉資金対応者、中学校へのアウトリーチによる困窮者など）へのそれぞれの事情に即した効果的な支援を期待。 ▶ 行政や社会福祉協議会と幅広く連携した食料支援事業や支援活動の一部を就労支援の一環として活用する点を評価。 <p>● 課題と期待事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 中学校や高校との連携もさらに深める機会にしていきたい。 ▶ 多子世帯や住宅ローン等の新たな困窮層へのアプローチや、就労施設事業とのタイアップ支援にも期待したい。広域的な支援や多様な支援を効果的に持続的に行う取組や活動の周知の拡大を図りたい。 ▶ 部活等支援品について配布先の世帯が困窮世帯になるよう、一般世帯に配布することが無いよう、注意が必要。 	